

所報

題字：武田満之校長（平成9年、野幌中学校）

第163号 令和3年12月10日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町 24-6 TEL381-1058

（主な内容）

- ・「体育専科教員活用事業」公開授業実施報告
- ・小学校、中学校外国語教育授業参観実施報告

「体育専科教員活用事業」公開授業実施報告

11月26日（金）に大麻東小学校で、体育専科教員活用事業のまとめとなる自主公開授業が実施されました。

当日公開された授業は、6年生の「表現：リズムダンス」で、1年生から段階的に取り組んできた表現活動の集大成となる授業を紹介して頂きました。四反田先生の授業では、①各運動の特性を理解し、表現に適した動きを選択する力、②課題解決に向けて思考判断しながら他者に伝える力、③互いに高め合う活動を通し、関係を深める態度の育成等、授業を通して身に付けさせる資質能力を明確に位置付けることや、これを着実に定着させる手立てとして、タブレットを利用した映像によるチェック（イメージ通りの表現ができているかの確認）や、グループによる相談活動で視点を広げ、考えを深化させていく実践を見せて頂きました。



ラジオ体操を取り入れたダンスを踊る6年生の様子

また、授業後に行われた事後研で、体育専科教員活用授業のまとめとして、大麻東小学校で3年間取り組まれてきた体育専科活用事業の概要についての報告がなされ、教科指導の専門性を高める上で必要な視点について下記のような内容で協議が進められました。

活用事業については、小中一貫教育の推進や働き方改革の促進等からも教育現場に増えていくことが予測され、非常に参考となる実践紹介となりました。



タブレットを見ながら改善点を相談する6年生の様子

<協議内容>

- 1 目指す子ども像、目標の設定
 - ・目指す姿に必要な身に付けさせる資質能力の明確化
- 2 必要な能力を育てる教育課程の見直し
 - ・系統性を意識した学習課題の設定（発達段階に合わせ、ステップアップしていく課題設定）
 - ・教育効果を高める意図的な単元の配置（行事や季節等の条件に合わせた単元設定）
 - ・他教科との横断的な指導及び、特別活動とリンクさせた教育活動の推進
- 3 資質能力を育てる手立ての共有化
 - ・見通しを持たせる授業、指導方法の改善
 - ・学習効果を高める環境づくりの推進（表に出ないカリキュラムの充実）
- 4 実践に対する検証と課題改善に向けた体制、サイクルの確立
 - ・人が変わっても、システムや取組みが継続できる体制の確立

小学校、中学校外国語教育授業参観実施報告

11月18日(木)に江別第一中学校、11月25日(木)に東野幌小学校で、ALTによる実践交流が実施されました。本来は、各校の外国語担当者に参観して頂き、各校での外国語活動の充実化につなげていただく交流授業ですが、多くの参加者を集めての実施が、まだまだ心配な状況にあるため、今回の授業交流は、江別市内に務めるALTが、お互いの指導方法を交流することで、児童生徒への支援方法のスキルアップを図ることを目的に切り替え実施されました。



課題の定着に向け交流し合う児童の様子

昨年年度は、新型コロナウイルス感染の影響を受け実施することができませんでしたので、2年ぶりの交流となりました。小学校の授業は、来日4年目のカービー・ヴォシエル氏が、学習指導のメインとなり、学習課題の定着に向け、視覚的な情報を利用したり、ゲーム的な要素を取り入れた反復学習で、楽しみながら学んでいく学習方法を紹介してくれました。担任の先生とのコンビネーションで、英会話の手本を示しながら、失敗を怖がらないで発表に挑戦できる雰囲気をつくり出したり、交流を多く取り入れることで、アクティビティーに富んだ授業を展開させたりと、とても参考となる授業となりました。

昨年年度は、新型コロナウイルス感染の影響を受け実施することができませんでしたので、2年ぶりの交流となりました。小学校の授業は、来日4年目のカービー・ヴォシエル氏が、学習指導のメインとなり、学習課題の定着に向け、視覚的な情報を利用したり、ゲーム的な要素を取り入れた反復学習で、楽しみながら学んでいく学習方法を紹介してくれました。担任の先生とのコンビネーションで、英会話の手本を示しながら、失敗を怖がらないで発表に挑戦できる雰囲気をつくり出したり、交流を多く取り入れることで、アクティビティーに富んだ授業を展開させたりと、とても参考となる授業となりました。



授業後のディスカッションの様子

また、中学校の授業は、形容詞や副詞を用いた比較表現の授業で、来日7年目のロス・サザーランド氏が、ウォーミングアップと、学習課題を定着させるためのミニゲームを紹介してくれました。ウォーミングアップでは、授業前の生徒の緊張感をほぐしスムーズに授業に入っていける

環境を整えることを意識した実践を、ミニゲームでは、お互いにインタビ



ALTによる学習支援の様子

ューし合うゲーム形式の学習方法を取り入れながら、学習課題を定着させる支援方法(反復練習による定着)を実践してくれました。



授業後のディスカッションの様子

2つの交流授業で意識されていたのは、単元における身に付けさせたい能力を、明確に示すこと(学習課題)と、定着させるためのアクティビティーを意識していることで、これにより児童生徒が授業に対して見通しや関心を持つことができ、集中力が高まっている様子が伺えました。

ネイティブな発音に触れさせ、児童生徒が英語に対して抵抗なく取り組むことができるようにすることを目的に、ALTのシステムは導入されていますが、より効果的な支援方法として進めていくためには、授業内での担任との役割分担が明確化されることが大切になってきます。「どの段階で」、「どんな目的を持ち」、「どんな支援方法でALTを活用するか」、連携を図りながら進めていくことがポイントになってきますが、今回の交流授業は手本となる取組となりました。